

【透視 部門】

● 透視検査とは？

X線テレビとも言われるX線透視撮影装置で行う検査で、見づらい体内臓器の形態や機能などをX線透視画像でリアルタイムに観察する検査です。

透視検査の内容は様々で、股関節脱臼の整復などX線透視装置のみで行う検査もあれば、胃のバリウム検査のように造影剤を使って行う検査やX線透視撮影装置と内視鏡や超音波を併用する ERCP(Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography)やIVR(Interventional Radiology)等の検査もあります。

当院で使用している3台のX線透視撮影装置は、全てFPD(Flat Panel Detector)方式を用いているため、従来のX線透視撮影装置に比べ、歪みがなく広い範囲の観察が可能です。また従来に比べ被ばく量も低減しています。

● 装置（使用機器）

X線透視撮影装置

[Canon 製 Ultimax-i]

Cアーム型X線装置で、多方向からの透視観察、撮影が可能です。

整形外科の検査やIVRなどに多く使用されます。



[島津製作所製 SONIALVISION G4]

装置自体は小型で検査室を広く使えることと、検査室に陰圧をかけることができることから、主に呼吸器科のBS(Broncho Fiberscopy)検査に使用されています。また、下肢全長撮影も可能です。



[日立製 CUREVISTA]

天板が動かず広いのが特徴で、主に消化器科の内視鏡を使用した検査に使用されます。



● 撮影方法・検査の流れ

1. 21番で受付をし、ファイルを持って受付表に記載のある17番、18番、20番いずれかの番号の撮影室の前の椅子に腰かけてお待ちください。
準備ができましたら、担当のスタッフが受付番号でお呼びします。
2. 検査範囲に衣服の金具・ボタン・湿布・ホッカイロ等がある場合は外していただきます。また必要に応じて検査着に着替えてもらうこともあります。
3. 透視台に乗っていただき、必要な検査を行っていきます。
透視台は通常のベッドより狭く、また必要に応じて動きますので、担当スタッフの指示をよく聞いて、できるだけ動かないようにお願いします。
4. 検査終了後は、外来の方はファイルを持って外来へ、病棟の方はそのまま病棟へお戻り下さい。

※徒歩で来られた方でも検査終了後安静が必要な場合はストレッチャーや車椅子でお戻り頂くことができます。

● 検査の種類

当院の透視室で行っている検査の例をいくつかご紹介します。

・股関節脱臼

脱臼した股関節を、透視画像を見ながら整復する検査です。

・胃のバリウム検査

鎮痙剤を筋注後に、発泡剤とバリウムを飲み、食道や胃の病変の有無をみる検査です。

※鎮痙剤を注射せずに施行することもあります。

・内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

特殊な内視鏡を口から挿入し、十二指腸まで進めて胆管・膵管の出口（乳頭）から細いチューブを挿入し、透視で確認しながら胆管や膵管に造影剤を注入する検査です。

・侵襲的放射線療法（IVR）

超音波と透視画像を見ながら、体内に細い管（カテーテルや針）を入れて血液や排膿を抜いたりする治療検査です。

・気管支内視鏡検査（BS）

内視鏡を肺や気管支に挿入し、透視画像で病変の位置を確認しながら病変組織を採取したり、洗浄した回収液から細胞を調べたりする検査です。

・点滴静注腎盂造影（DIP : Drip Infusion Pyelography）

静脈から造影剤を点滴し、腎臓、尿管、膀胱に造影剤が流れる様子を、時間を追って観察していく検査です。

・下肢全長撮影

下肢全体（骨盤からつま先まで）を1回で撮影する検査です。